

経営概要書

法人名：

十和田ホテル 株式会社

(株 4)

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役 猿田 強	所管部課名	観光文化スポーツ部観光戦略課	
所在地	小坂町十和田湖字鉛山無番地	設立年月日	平成9年12月5日	
電話番号	0176-75-1122	ウェブサイト	https://towada-hotel.com	
主な出資 (出捐) 者	出資（出捐）者名		出資（出捐）額（千円）	出資（出捐）比率（％）
	秋田県		100,000	40.0%
	藤田観光(株)		37,500	15.0%
	DOWAホールディングス(株)		22,500	9.0%
	その他3市町、13団体		90,000	36.0%
	合計		250,000	100.0%
設立目的	歴史的・文化的価値の高い十和田ホテルを後世に伝えるとともに、同ホテルの効率的な運営を図り、もって十和田地域の観光の振興に寄与することを目的に県等の出資により平成9年12月に設置。			
事業概要	十和田ホテルの諸施設の管理運営業務			
事業に関連する 法令、県計画	なし			

2 平成30年度事業実績

本年度においても、観光客が大幅に減少する冬期間は営業休止とし、事業採算性を重視した経営を行った。売上高では、旅行エージェンツ、インターネット経由での個人客利用が順調に推移し、宿泊人員14,423名(前期比1,469名増)売上高では250百万円(前期比30百万円増)となった。費用面では、旅行エージェンツからの送客が好調であったことにより手数料が増加し、重油等仕入価格の上昇により水道光熱費が増加した。また、従業員採用が非常に厳しい環境下にあり、人材確保のための求人広告、採用難による賃金の上昇等で人件費が増加した。その結果1.6百万円の経常損失となった。

項 目	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
売上高(千円)	目標	216,000	218,000	230,000	262,000
	実績	210,613	219,634	249,971	—
個人客宿泊人数(人)	目標	13,100	13,100	13,300	14,500
	実績	12,930	12,954	14,423	—
顧客満足度指数	目標	90	90	90	90
	実績	91	92	92	—

3 組織

① 役員数(R1.7.1現在)

(単位:人)

区 分	取締役		監査役		役員報酬 支給対象者 (H30年度)
	H30	R1	H30	R1	
常勤	1	1			2 人
内、県退職者					
内、県職員					
非常勤	7	7	1	1	平均年齢 60 歳
内、県退職者					
内、県職員	1	1			平均報酬年額
計	8	8	1	1	(H30年度)
内、県関係者	1	1			5,700 千円

② 職員数(H31.4.1現在)

(単位:人)

区 分	H30	R1	正職員
正職員	5	5	平均年齢 46 歳
内、県退職者			平均勤続年数 8.2 年
出向職員			平均年収 (H30年度)
内、県職員			3,840 千円
臨時・嘱託			
内、県退職者			
計	5	5	
内、県関係者			

③ 取締役会回数

平成29年度	4	平成30年度	4
--------	---	--------	---

4 財務

① 損益計算書

(単位:千円)

区 分	平成29年度	平成30年度
売上高	219,634	249,971
売上原価	190,256	219,748
売上総利益	29,378	30,223
販売費及び一般管理費	28,531	31,915
人件費(売上原価含む)	75,094	89,519
営業利益(損失)	847	△ 1,692
営業外収益	257	97
営業外費用		
経常利益(損失)	1,104	△ 1,595
特別利益		
特別損失		
法人税、住民税・事業税	490	300
当期純利益(損失)	614	△ 1,895

② 貸借対照表

(単位:千円)

区 分	平成29年度	平成30年度
流動資産	109,335	105,921
固定資産	3,702	5,000
資産計	113,037	110,921
流動負債	7,446	7,226
短期借入金		
固定負債		
長期借入金		
負債計	7,446	7,226
資本金	250,000	250,000
利益剰余金等	△ 144,409	△ 146,305
純資産計	105,591	103,695
負債・純資産計	113,037	110,921

(単位:千円)

退職給与引当状況	要支給額	引当額	引当率(%)

※中小企業退職共済制度へ加入している。

<主な経営指標>

項 目	算 式	平成29年度	平成30年度	増減※
経常収支比率	経常収益÷経常費用×100	100.5%	99.4%	△ 1.1
流動比率	流動資産÷流動負債×100	1468.4%	1465.8%	△ 2.5
自己資本比率	純資産計÷負債・純資産計×100	93.4%	93.5%	0.1
有利子負債比率	有利子負債÷純資産計×100	0.0%	0.0%	0.0

※端数処理の関係で増減が一致しないことがある。

(単位:千円)

5 県の財政的関与の状況

区 分	平成29年度	平成30年度	支出目的・対象事業概要等
年間支出			
補助金			
委託費			
指定管理料			
年度末残高			
貸付金			
損失補償			
その他の財政支出(基金等)			

I 自己評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 観光客、宿泊客に十和田湖の魅力を伝え十和田湖周辺の活性化に寄与している。国登録有形文化財および近代化産業遺産を有し、その維持管理に努めている。	A 取締役会は法定回数の4回開催している。充て職の役員は毎回取締役会に出席している。常勤役員はプロパー職員である。	A 旅行エージェント個人商品、インターネット経由での販売を積極的に行ったことにより全数値目標を達成できた。	B 単年度損益は赤字ではあるが、売上が伸びており今後生産性を向上することにより黒字転換が可能である。

II 所管課評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 県関与の縮小に位置づけられている法人であるが、十和田湖周辺地区の活性化に寄与し、また国登録有形文化財である建物の適正な維持管理を行うなど、一定の公共的役割を担っている。	A 取締役会は4回開催されており、法定回数を満たしている。常勤の役員及び職員がおり、体制は整っている。充て職の役員は毎回取締役会に出席している。	A 個人客宿泊人数、売上高及び顧客満足度指数の全てにおいて目標を達成している。	C 単年度経常損益が赤字であり、累積損失があることからC評価とする。

III 外部専門家のコメント

宿泊人員の増加等の影響で売上高は前年比30百万円の増収となったが、営業費用はそれ以上の33百万円増加し、結局営業損失を計上した。ここ数年は単年度黒字を継続しており、安定的に利益を計上できる経営体質になってきたと考えられていたが、一転して赤字となり、累積赤字は146百万円に膨らんだ。現状純資産も資本金の二分の一を割り込んでいる（株主は株式の減損損失の計上を判断しなければならない水準）。多額の累積損失を減らすには、単年度黒字を継続することが求められるが、代理店手数料の増加は売上高の増加に比例して増加するのでやむを得ないとして、赤字の要因となっている人材確保の困難性や人件費の増加に関して、何らかの対策を講じる必要がある。

IV 委員会評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 三セクの行動計画には「県が直接民間企業に委託することが可能な事業を主たる事業としている法人」に位置づけられているが、周辺地域の活性化など、一定の公共的役割を担っている。	A 常勤の役員がおり、組織体制は整っている。また、充て職役員は、取締役会に毎回出席している。	A 営業赤字とはなかったものの、売上高、個人宿泊人数、顧客満足度指数の3項目全てにおいて目標を達成している。売上高自体は伸びており、業務の効率化、コスト管理の徹底による赤字脱却が望まれる。	C 前期までは黒字を確保していたが、経常赤字となった。累積損失も解消されておらず、経営体質の改善が求められる。

V 前年度委員会評価

1 公共的役割	B	2 組織体制	A	3 事業実施	A	4 財務状況	B
評価結果を受けて実施した経営健全化に向けた取組（概要） 混雑時にフロントスタッフがレストランの営業を手伝えるようにするなど人員配置を工夫し、経費削減に努めたが、重油仕入単価の上昇等による水道光熱費の増加や、人材確保のための人件費増加により単年度損益は赤字となった。							